

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

重点1 (学習活動)

毎日、家庭で学習する生徒の割合は、68.0% (6月) から65.0%(2月)と低下した。1年は71%、2年は66%、3年は57%であった。平均学習時間は32.4分 (R3 42.3分) と短くなった。コロナ関連の出席停止となる生徒も多く、落ち着いて学校生活を送ることができない状況が続いている。

生徒一人あたりの資格・検定受験回数は、2.07回 (R3 2.35回) と昨年に比べ減少した。各科における資格取得へ向かう指導によるところが大きいと思われる。ジュニアマイスター表彰者は、ゴールド6名 (R3 12名)、シルバー6名 (R3 18名) となり、大きく減少した。しかし、電気科においては、第2種電気工事士に3年生全員が合格 (7年連続) し、加えて1年生も全員合格 (本校初) となった。

重点2 (学校生活)

各種アンケートの実施や面談等を通じて、生徒の実態と理解に努め、問題の予防・早期発見・早期対応を図った。

登校時の遅刻指導を継続して実施し、また各分掌と連携して基本的な生活習慣の維持を啓発してきた。昨年度に比べ、今年度は欠席・遅刻人数は増加し、早退人数は減少した。特に、怠惰による遅刻数が50%増加した。

私物・貴重品の管理を徹底するよう声掛けし、授業中の校内巡視を充実させた。また被害調査を学期ごとに実施し、状況把握や盗難・紛失の未然防止に努めた。その結果、紛失・盗難件数が目標の「0」になった。

重点3 (進路支援)

今年度もコロナ禍での進学・就職活動であり、応募前見学の日程や生徒の体調調査など企業や進学先との連絡事項が多かったが円滑に調整することができた。また、オンラインでの企業説明会、学校説明会、面接試験などにも適切に対応できた。卒業生全員の進路が決定した。

重点4 (特別活動)

今年度は、体育大会、鷹工展などの学校行事を通常開催できた。そのため、生徒主体でリーダーを中心とした活動を経験させることができた。コロナの影響が少なくなり各大会が通常通り実施されたこともあり、部活動の取り組みに関して満足できた (満足度85%) と答える生徒が増えたと考えられる。

7 次年度へ向けての課題と方策

- ・基礎学力不足の生徒に対する継続的な指導、学習意欲を高めるための工夫が必要である。
- ・ICT機器の効果的な活用を模索し、自宅学習や各科の実習、課題や朝学習への応用の研究を図る。
- ・学科ごとに取り組みせたい資格検定を設定し、将来の進路へつながる取り組み・指導方法を工夫し、知事表彰やジュニアマイスター顕彰等を目標にさせるなど、多くの資格取得に挑戦する意欲を高める。
- ・引き続き生徒の様子・変化を見逃さず理解に努め、場合によっては外部の専門家を積極的に活用し、チーム学校として組織的に対応する必要がある。
- ・いじめ事案等も含め、教員が情報を共有し組織として対応する体制をさらに整えることが必要である。
- ・企業や進学先で必要なコミュニケーション能力や挨拶、マナーを授業や部活動、学校行事や学級活動などを通して継続的に指導するとともに、進学先や就職先と本人のミスマッチを防ぐための基礎学力の定着や職業意識の醸成を図る。
- ・充実した部活動にするため、外部指導員を積極的に活用し、指導者と生徒が運営方法などについて話し合うなど、お互い協力しながら活動していくことが必要である。